



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会

虹の通信 第28号

2018年 8月8日

—癒し担当準職員を迎えて—

大変ご無沙汰しておりました。昨年9月の第27号から発信が途絶えておりました。

実は本年6月に開所した、第2湘南まるめろ保育園建設事業の調整が昨年の秋から始まり、で多忙であったため、通信の発行が出来なくてヤキモキしておりました。ここでやっと少し余裕が出てきましたので、法人の方針や気になる社会政治情勢、心していることを発信していきたいと考えます。

昨年の9月に5年間施設で職員のみならず、ご利用者やご家族にも可愛がられていた「準職員リン」が病気で死亡しました。そのための後任をと、彼方此方に人に慣れた、また慣れ易く人を怖がらない準職員候補の猫を捜しておりましたが、なかなか見つかりませんでした。しかし、去る4月25日に、法人役員の方から、生後6週間の可愛い子猫2名（匹）が届けられました。

早速ゲージに入れ、段々と慣れるようにし、色々な職員が交代で、世話やフォローし、面倒を見てきて、1名（匹）はかりん・町田の職員とその家族のペットとして引取られていき、鯖虎模様の「りんりん」が施設の主、「癒し担当」を業務とする準職員となりました

猫にも人格ならぬ「ニャン格」があり、攻撃的であつたり、逃亡癖や人嫌いなど色々だそうです。主治医の動物病院の先生は「この猫は大人しい、大勢になかで飼うにはピッタリ」だとお墨付きを頂きました。先代のリンは屋内も野外も自由でしたが、そうすると病気や感染症、野良猫とのバトルによる負傷等で寿命は長くて7~8年、屋内であれば12~3年ぐらいかなとのことでした。

ご利用者やご家族、また職員にとっても何かほっとするような時が得られるようで、時には抱かれたり、腕の中で眠ったりしています。施設としても色々な方が触っても大丈夫なように実務実習中です。現在、生後5か月未だやんちゃですが皆さんのアイドルになれるように叱咤激励をしていきます。ペットも介護施設の重要な資源であり、設備環境条件でもあります。定期的にメデカルチェックを受けて長く勤務をして頂きます。

先代のリンは植樹帯の中に埋葬し、施設の守り神として次の役目を担ってもらっています。

以 上